

ジモト で はたらく

宮城県版



地元就職を考えてみよう

これから就職を考えているみなさんの中には、
地元「残る」「離れる」という決断で

悩んでいる人もいるのではないだろうか。

この冊子では、地元企業で活躍する先輩の

実際の仕事や休日の過ごし方などを紹介。

地元就職ならではの魅力とやりがいについて

聞いてみました。



地元就職を考えてみよう	2
-------------------	---

日本茶を軸に食文化を守り、 伝える仕事に「誇り」を感じて	4
---------------------------------------	---

中山 真尋さん

井ヶ田製茶株式会社 秋保ヴィレッジ 喜久水庵アグリエの森店 販売担当 2018年入社

プロの足元を支える シューズウェアのスペシャリストになりたい	8
---	---

鈴木 康介さん 弘進ゴム株式会社 製造担当 2014年入社

被災3県の高校生・大学生の就職に関するアンケート	12
--------------------------------	----

まずは、地元企業を知ることから始めてみよう	14
-----------------------------	----





製造過程を見学できる「千日餅」の売り場。

日本茶を軸に食文化を守り、 伝える仕事に「誇り」を感じて

仙台の新名所

「秋保ヴィレッジ」で

仙台市中心部から車で約30分、名湯秋保温泉の手前に観光農業施設「秋保ヴィレッジアグリエの森」はある。仙台を代表する老舗企業の井ヶ田製茶株式会社と関連会社のお茶の井ヶ田株式会社、そして秋保地区の農家

が加わり共同で運営を行う。

この施設内にある「喜久水庵アグリエの森店」に勤務するのが、入社1年目の中山真尋さんだ。「喜久水庵」は、1996年に1号店を開店。お茶の販売に加え、抹茶を使ったお菓子や、抹茶ソフトクリーム、茶そばを提供する飲食併設の店舗に「茶寮KUSU」も加え現在約50店舗、関東



な か や ま ま ひ ろ

中山 真尋さん

井ヶ田製茶株式会社 秋保ヴィレッジ 喜久水庵アグリエの森店
販売担当 2018年入社 名取市出身 18歳

での店舗展開も行っている。

中山さんの担当は、主に接客と販売だ。「当店では、接客と呼び、お客様にお茶をお出しするのですが、心を込めて対応するようにしています」。中山さんの祖母がお茶の教室を開いていたこともあって、子どもの頃からお茶が大好きだった。就職の際は、迷うことなく同社を選んだという。一日中お茶に接する仕事だが、「帰ってからもお茶で一息つきます。お茶を飲むと心が落ち着くのがいいですね」と話す。

「シスター制度」で 新入社員をサポート

お客様にお茶を勧める姿も板についてきた様子の中山さん。「お茶をお出した時にお客様から「美味しかった、ありがとう。がんばってね」と言っていたこともあります。そんな時にやりがいを感じ、もっともっと美味しく入れようと思います」

中山さんのような新入社員を教育するために、同社では「シスター制度」を導入している。新入社員が一人前になるまで、先輩社員がマンツーマンでしっかりサポートする教育制度



中山さんの ある日の一日

8:00 ● 出勤

品出しやレジの準備をする。

8:30 ● 朝礼

スタッフ全員で連絡事項を共有する。

9:00 ● 開店

お客様のお出迎えの後、接客やレジ対応をする。地元生産者の方にお茶出しすることも。

11:30 ● 昼食

昼食の時間帯は混み合うので、早めに昼食をとる。

12:30 ● 業務再開

引き続き、接客やレジ対応をする。

17:00 ● 終業



ほかの売場の応援にも素早く対応。

だ。「入社10年目の先輩がシスターとなって、お茶の入れ方をはじめ、基礎から丁寧に指導していただいたおかげで、不安なく仕事を覚えることができました」と話す。

お茶は奥深いものがあると中山さ

ん。「お茶には、蔵出し煎茶、浅蒸し茶、玉露などいろいろで、その違いについてのお問い合わせがよくあります。お客様の方がお茶をよくご存知の場合も。ですから、お茶に関してこれからもっと勉強しなくては」と意欲をみせる。

お茶を通して日本文化の 魅力を発信し続けたい

中山さんの同期は21人で、1人の退職者もなくそれぞれ配属先で頑張っていると話す。同期の仲間とは時々情報交換していて、「働く店舗も業態もさまざま。同期のみんなから話を聞いてとても刺激を受け、自分の仕事にもやりがいを感じています」

と話す。中山さんは「喜久水庵」の業務だけでなく、繁忙期には急ぎ、産直売場やイトインの応援に入ることもある。「いろんな部署で仕事をすることは、自分にとって勉強にもなります。大勢のお客様に来場いただき、施設内に活気があふれているのを見るとうれしくなります」と話す。

秋保温泉が近いという立地の良さもあり、観光客の立ち寄りスポットとして人気を集め、年々外国人客も増えている。「外国の方がお茶に興味を持たれているのを見ると、日本文化としてのお茶の魅力を改めて感じます」と話す中山さん。お茶の魅力をとくさんの人に知ってもらうために、「さまざまなお茶の楽しみ方を伝えたいです」と目を輝かせた。

上司に 聞く



店長
東 弘恵 さん

基礎を身に着けた1年目、 さらなる成長に期待

「喜久水庵」には、長年ご愛顧いただいているお客様が多く、それだけに年配の方とのコミュニケーションがとても重要です。その点、中山さんはお話に耳を傾け、上手に接しているので安心して任せることができます。中山さん自身もお茶が大好きで、それが自然にお客様に伝わるのかも知れません。

また、「秋保ウィレッジアグリエの森」には、従業員や生産者の方、取引業者の方など多くの人が出入りしています。中山さんより年上の方々がかりですが、持ち前の明るさと素直さで、みなさんにかわいがられています。学んだことを吸収して、すぐ行動に移せるのが中山さんの良い所。今年は基礎を身に着けた1年ですので、今後はステップアップして、ギフトの提案やイベントの企画などにも携わってもらいたいと思っています。

宮城県で はたらく魅力

**仕事もプライベートも充実
「地元でよかった」を実感**

中山さんの自宅から「秋保ヴィレッジ
ジアグリエの森」までは、マイカー
で約40分の距離だ。通勤ラッシュや
渋滞に巻き込まれることもない。

仕事を終え、家に帰れば家族が
待っていてくれて、夕食も用意され
ている。「弟が受験を控えているの
で、お給料から毎月の食費とスマホ
代を家に入れてあります」。貯金もしつ
かりしていて、新車を購入するのが
目下の目標という。週休2日制で、
休日は友人と会うのが楽しみの一つ
だ。「体を動かすのが好きなので、



毎朝スマイルチェックしてから売場へ。

時々友だちと体育館を借りてバスケ
をすることもあります。高校の同
級生の多くが地元で就職すること
を決めたこともあり、仙台での就職を
考えたという中山さん。「自宅から
通える範囲で就職先を探してみれば
と、母から勧められたことも当社を
選んだ決め手の一つです。仕事もプ
ライベートも充実しているので、と
ても満足しています」。

**社員満足度の高さも評価
仙台「四方よし」企業大賞受賞**

農業者支援をはじめ、食育・食文
化の伝承、地域のにぎわい創出、観

光振興など、さまざまな面で地域課
題の解決に役立てようと2014年
7月にオープンした複合施設「秋保
ヴィレッジ」。地元農業者との連携
による新鮮な農産物などの販売、地
元住民の協力による農業体験の実施
に加え、社員の育成・能力向上にも
きめ細かに取り組んできた。このよ
うなやりがいのある働きやすい職場
づくりが評価され、2017年に仙
台市から仙台「四方よし」企業大賞
を受けた。「売り手よし」「買い手よ
し」「世間よし」の三つの「よし」。
店と客がともに満足し、また、社会
貢献もできるのがよい商売であるこ
とを指す「三方よし」に、「働き手
よし」、つまり「社員よし」を加え
た「四方よし」の企業として、今後
のさらなる進化に期待が高まる。

「朝出勤して、お店に出る前には、
鏡の中の自分の顔を見て、スマイル
チェックするのが私たちの日課で
す。いつもお客様のために何ができ
るかを考え、行動に移そうとする人
が集まっている感じです」と語る中
山さん。その笑顔から、働きやすい
職場であることがうかがえる。「秋
保ヴィレッジ」という地域に深く根

付いた施設の中で働くことで、使命
感が育まれ、中山さんをはじめ、こ
こで働く社員の原動力になっている
ようだ。

**イベントの企画や
運営にも挑戦してみたい**

「秋保ヴィレッジ」は、「ハンドメ
イド市」や「テント村」などさまざ
まなイベントの取り組みにより、食
と農業の体験型テーマパークとなり
つつある。2016年11月、フード
コート内にオープンした足湯「茶っ
ぽりん」は人気の施設だ。「お茶の



先輩たちも温かく見守っている。

中山さんの オフショット



休日は、友だちと バスケでリフレッシュ

若い頃バスケットボールの選手だった母を見て「私もバスケが上手になりたい!」と思うようになり、中学時代はバスケ部に所属していたという中山さん。

高校時代はバスケ部には入らなかったものの、学校帰りにバスケ好きな友だちと一緒に、市民体育館でバスケを楽しんでいたのだそう。就職した今も、仲間と一緒に時間を調整して、市民体育館に集まり、楽しい時間を過ごしているという。「バスケで汗を流すと心身ともにスッキリし、明日からまた頑張ろうと思うるので、最高のリフレッシュタイムになっています」と話す。

井ヶ田「ならではの試みで、お茶を使った足湯温泉には、フードコートで購入したジェラートを食べながら足湯に浸かるお客様の姿も見られる。お客様が来店されるたびに、新しい発見をしていただき、楽しんでいたできるよう、さまざまな企画を行ってきたという。『イベントはすべて従業員が企画から考えています。これまでは仕事を覚えるので一杯でしたが、これからは私もイベントの企画や運営にも携わってみたいと思っています』と話す。

老舗のお茶屋さんから、お茶をテーマにした「喜久水庵」の新たな業態

を展開し、「喜久福」じつ茶ん」をはじめ数々のヒット商品を生み出してきた同社。震災で自信を失いかけた秋保地区や、周辺の農業や観光業を、元気づけてきた功績は大きい。

「秋保ヴィレッジ」は、今なお進化を続ける。今後は、中山さんのようなフレッシュな感性の社員が、これまで以上にユニークなイベントや商品を生み出していくに違いない。



後輩へのアドバイス

高校卒業後、進学や就職で地元に残る友人が多かったことや、家族のことを考えて地元での就職を選びました。おばあちゃん子の私は日本茶が大好きで、「お茶の井ヶ田」の名前も子どものころから耳にしていたので、安心感もありました。

入社後、配属された「秋保ヴィレッジ」は、農業支援や美しい里山の風景を守り伝えることや、観光振興による地域の活性化など社会貢献を目的にした複合施設です。さまざまな人と接する中で学ぶものも多くあります。地元には、当社のように老舗ながら、新しいことに挑戦し続ける会社もあります。みなさんも地元での就職を考えてみてはいかがでしょうか。

企業情報

井ヶ田製茶株式会社

所在地 宮城県仙台市青葉区大町 2-7-23
TEL: 022-224-1371
<http://www.ocha-igeta.co.jp/>

代表取締役社長 今野 克二

資本金 5,000万円

設立 1920年11月

従業員数 200人 (2018年12月現在)

事業内容 茶製造販売、茶菓子製造販売、茶器茶道具類の販売、喜久水庵の展開、お茶の井ヶ田の運営



プロの足元を支える シューズウェアの スペシャリストになりたい



す ず き こ う す け
鈴木 康介さん

弘進ゴム株式会社

製造担当 2014年入社 巨理町出身 29歳

**業務用長靴のシェアは
国内でトップクラス**

1935年創業の弘進ゴム株式会社はゴム製品を通して、高度成長期の日本経済を支えてきた。現在は、シューズウェア、工業用品、産業資材の3部門で、ゴム、ビニールを原料とした製品の製造販売を行う。中でも国内トップクラスのシェアを持つのが業務用長靴で、近年、工業用品の業績も好調である。

1966年に設立された巨理工場は弘進ゴムグループの一大生産拠点であり、約200人の人員で、生産部門は交代制で勤務している。シューズウェア部門では各種長靴を24時間3交代制で製造し、他に工業用樹脂ホース、シート・フィルムの製造を中心に展開してきた。

**機械化が進んでも
最後は人の手が必要**

巨理工場のシューズウェア部門に勤務して4年目の鈴木康介さんは、業務用長靴の製造を担当する。オートメーション化された製造ラインで

は、足型に裏布を装着。続いて金型に原料が流し込まれる。一方、一周して出来上がった長靴を金型から素早く取り出し、不良品がないかもチェックする。

鮮やかな手付きで一連の作業をこなす鈴木さんは、「最初は回転するスピードが速く感じ、慣れるまで大変でした」。3交代制勤務に生活のリズムが変化し、戸惑いもあったという。しかし半年ほどでスピードにも対応できるようになった。「どれ



不良品がないか厳しい目でチェック。



鈴木さんの ある日の一日

※早朝勤務の場合

- 5:20 ● **出社**
- 6:00 ● **朝礼**
夜勤担当から業務を引き継ぐ。
- 6:10 ● **製造作業**
- 7:00 ● **朝食**
朝食は手軽なおにぎりで済ませる。
- 7:20 ● **製造作業**
- 9:35 ● **休憩**
休憩室でテレビを見て気分転換。
- 9:55 ● **製造作業**
- 10:55 ● **昼食**
休憩室でお弁当を食べる。
- 12:00 ● **製造作業**
- 13:45 ● **作業の引継ぎ**
片付け・翌日の準備などの後、次の担当者に引継ぎをする。
- 14:45 ● **終業**

だけの数の長靴を仕上げたかカウントするのですが、今はその数が気になります」。

鈴木さんが製造する長靴は、漁業や農業、食品など、現場で着用する「プロ仕様」だ。抗菌性や防汚性、防滑性に優れるほか、疲労軽減性や防寒性など、消費者のニーズに合わせた機能を備える。鈴木さんが1日に製造するのは10種類で、色やサイズのパリエーションにも対応する。その都度、仕様に合わせ機械を調整する。「天候、気温、湿度などさまざまな条件を加味し、微妙な調整が必要です。どんなに機械化が進んでも、最後にコントロールするのはやはり人の力です。そこに、やりがいを感じますね」。

さらなる高みを目指し シューズウエアを極めたい

「テレビで長靴を見ると、当社製品がどうか気になります」という鈴木さん。長靴が夢に出てくることもあると笑う。巨理工場で製造される長靴は、1日約4000足にも上る。「私が作った長靴を履いて仕事をしている人がいると思うと、自分も頑張らなければと思います」。目標は「不良品を出さないこと。失敗してしまつたら同じことを繰り返し返さなため、いかに機械を制御するかを考えます」と。入社した頃、不良品をたくさん出し「自分には才能がないと、辞めようと思ったこともありました。その時上司から、『失敗は

誰もが通る道。仕事は続けてこそ意味がある』と励まされました」。

周囲から温かく見守られる環境で成長している鈴木さん。「シューズウエアづくりを極めたい。役職を目指し日々努力しています」と力強く語ってくれた。



細かい部分は手作業で仕上げる。

上司に 聞く

誠実な人柄と 向上心で技術を取得



生産部
SW生産チームリーダー
崎野 信昭 さん

誠実な人柄と真面目な仕事ぶりで、先輩の指導の下で着々と技術を身に付けて成長してきました。技術の向上は、不良品の数もバロメーターになりますが、鈴木君の場合は不良品が少なく、確かな技術力が分かります。

この職場は社員が多く、交代の際の引き継ぎもあるので、「コミュニケーション」を取ることが重要です。その点でも彼は、誰とでも分け隔てなく接して、みんなから慕われています。24時間3交代制なので、終業後の時間を活用し休づくりをするなど、リフレッシュも上手に行っているようです。一人前に仕事ができるようになったのだから、もっと自信を持ち、自分の考えも積極的に言葉にするようになれば、近い将来リーダー的存在になれる人材だと期待しています。失敗を恐れず、前向きに挑戦しましょう！

宮城県で はたらく魅力

住みやすいから
亘理が好き

亘理町は、宮城県南部の太平洋沿岸、阿武隈川の河口に位置する町で、仙台湾主伊達政宗の一門、伊達成実が亘理城主となった「亘理伊達氏」の町として知られ、温暖な気候を利用した果樹・花卉栽培が盛んに行われている。

しかし、震災で甚大な被害を受け、沿岸部の景色は様変わりしてしまった。「子ども頃に両親に連れられて海に遊びに行きました。震災後、最初見た時は本当にショックでした」。現在復興に向けて前進しているふる



スピードと緻密さが求められる作業。

らも大好物です」。鈴木さんの世代がこれからの亘理町を支えていくのだろう。

**職住接近で
オンもオフも充実**

家から工場までの通勤時間は徒歩5分。「子どもの頃から弘進ゴムは知っていました。しかし、自分がそこで働く日が来るとは思っていなかったという。

東日本大震災の発災は、鈴木さんが北海道の会社に勤務していた時だった。「家に電話をかけても全く通じず、家族がとても心配でした」。海岸から離れていた実家は無事だったが、震災は鈴木さんがUターンするきっかけの一つとなった。地元就職先を探していたところ、「友人が会社で職員を募集しているから」と紹介してくれました。その会社が「弘進ゴム」だった。

「目の前が職場なので、通勤ラッシュに巻き込まれることもなく、時間が有効に使えます。実家での生活は、家賃や光熱費の心配もなく、一人暮らしの雑用が一切ない。経済

的にも精神的にも安定して仕事に打ち込めるという。休みは友人と会ったり、筋トレしたり。フィットネスクラブに通いリフレッシュしています」と、充実した日々を話す。

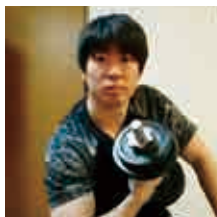
**座右の銘は「努力」
日々研鑽を積む**

鈴木さんの座右の銘は「努力」だという。現在担当する業務は、一通りできるのに2〜3年、機械の微妙な調整には3〜4年、全ての機械調整ができるには5〜6年かかるとい



職場の人間関係もいい雰囲気。

鈴木さんの オフショット



趣味の筋トレで 仕事もパワーアップ！

「もともとやせ型で線が細かったので、体を大きくするために、1年前からフィットネスクラブに通い始めました」。会員となったフィットネスクラブは24時間オープンしているので、仕事後の筋トレが楽しめという。プロテインも摂取し、食事でも注意して野菜中心にしたところ、筋力がアップ。

体重も56キロから78キロになり、がっちりした体形に満足そう。「体力も集中力もアップし、心身共に効果を実感しています。仕事の能率も上がったので、これからも続けます」。

われる。「奥が深い仕事です。コツコツ目標に向かう業務は、自分に向いていると思います」。

同社では、社員のスキルアップに向け、要望があれば外部研修や通信教育講座の受講費を援助する教育制度がある。それを活用し、鈴木さんは工具の使い方や学ぶ通信教育を受講した。「もともと機械と向き合う作業は、それほど得意ではなかったの



で、仕事に活かしたいと思い受講しました」。

3、4カ月続けた講座は「仕事に役立っています」という。

通信教育講座を受講したのも、オフの時間にフィットネスクラブで筋トレをしているのも、「シユーズウェアのスペシャリストになる」という将来の大きな目標につながっている。鈴木さんが日々積み重ねている努力が、やがて実を結ぶ日が来るに違いない。



後輩へのアドバイス

最初は誰もが華やかな都会に憧れ、地元を離れ外に出ようと考えがちです。しかし、実際は経済的にも精神的にも大変なことが多いものです。親に心配をかけることも。

私の場合、地元で再就職した今は、仕事もプライベートも、どちらも充実した毎日です。貯金もできるようになり、通帳を見るのが楽しみ。地元にも働きやすい職場はあります。

また、就職して、分からないことがあれば先輩にすぐ聞くことが大事です。それがミスを防ぐことになり、職場に早く慣れることができ、仕事へのモチベーションにもつながります。



亘理工場

企業情報

弘進ゴム株式会社

所在地 宮城県仙台市若林区河原町2-1-11
TEL: 022-214-3011
亘理工場:
宮城県亘理郡亘理町逢隈田沢字北萩石5-1
TEL: 0223-34-3151
<http://www.kohshin-grp.co.jp>

代表取締役社長 西井 英正
資本金 1億円
設立 1935年
従業員数 335名 (2018年4月現在)
事業内容 事業内容ゴム・ビニール製品の製造・販売



被災3県の高校生・大学生の 就職に関するアンケート

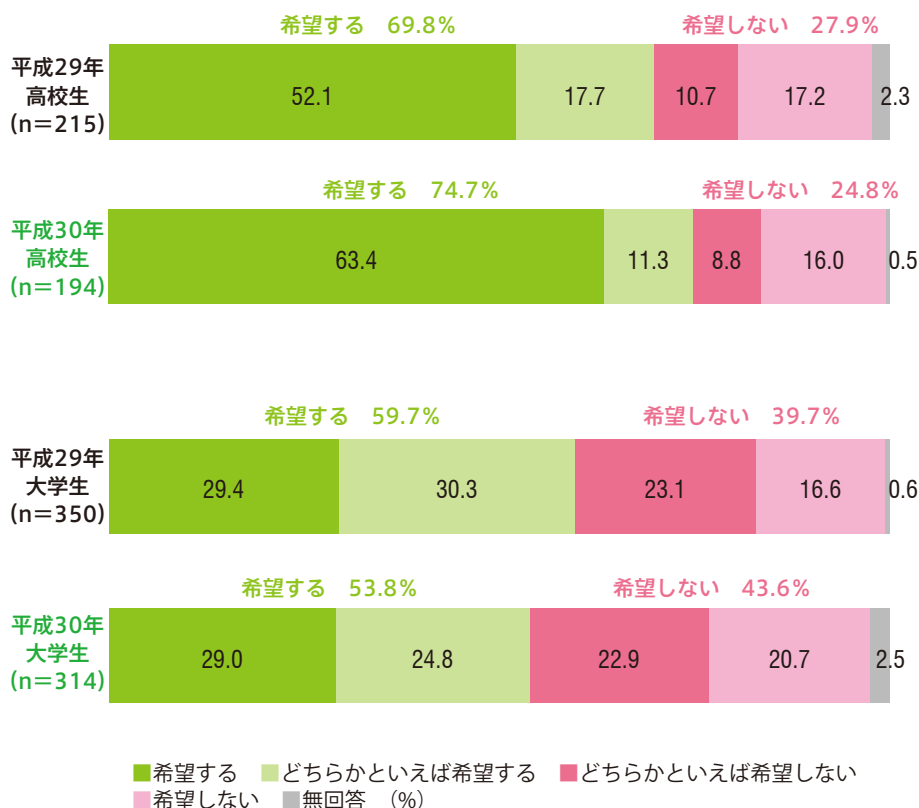
平成29年と平成30年12月に岩手・宮城・福島の高校生（水産系を中心）・大学生に対して、就職に関するアンケートを行いました。3県の学生の地元就職に対する考え方を見てみましょう。

※平成29年：被災3県高校生214名・大学生350名の回答から（2017.12 被災地における高校生・大学生・保護者の就職に関する調査）

※平成30年：被災3県高校生194名・大学生314名の回答から（2018.12 被災地における高校生・大学生・保護者の就職に関する調査）

■県内への就職希望について

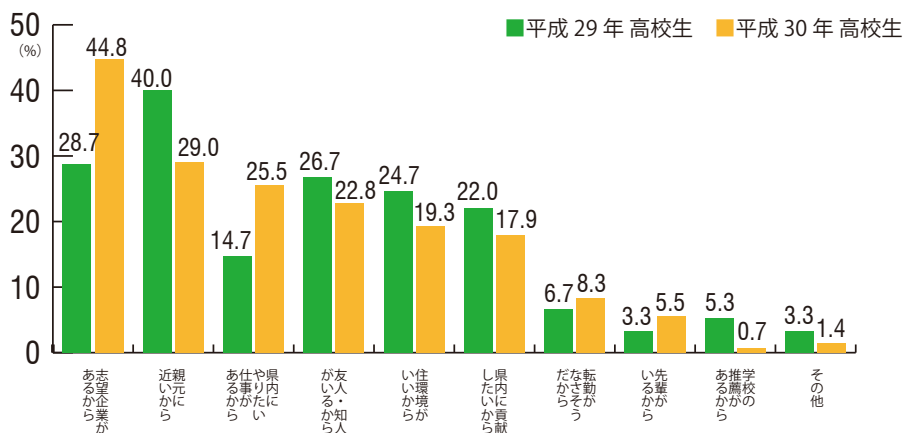
県内への就職希望者は、「希望する」又は「どちらかといえば希望する」と回答した学生が、高校生では約7割、大学生では約5割と、いずれも半数以上が県内就職を希望しています。



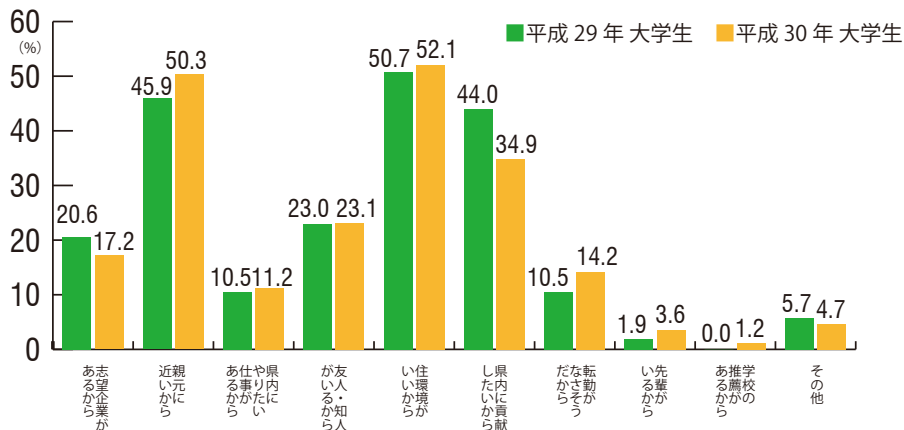
■県内就職を希望する理由

県内への就職希望理由は、高校生が「志望企業があるから」が最も多く、大学生では「住環境がいいから」「親元に近いから」「県内に貢献したいから」などとなっています。

高校生



大学生



まずは、地元企業を 知ることから始めてみよう

就職先を選ぶ時に、大手就職サイトに掲載されているような、首都圏の大企業ばかりに目を向けてはいませんか？

みなさんが魅力的だと感じる企業を見つけるためには、なるべく多くの企業の情報に触れ、たくさんの選択肢を持っておく必要があります。それは、みなさんが知らない企業の中にも、魅力的で働きがいのある企業がたくさんあるからです。

「ジモト」で就職することも大事な選択肢の一つ。

今まであって当たり前だと感じていた家族や仲間、自然環境も、実はかけがえのない宝物です。

魅力ある就職先を見つけるために、地元企業を知ることから始めてみましょう。



問い合わせ先

復興庁雇用促進班

TEL. 03-6328-0274
